

第 19 回 網走開発建設部 総合評価審査委員会 審議概要

開催日及び場所	平成 27 年 10 月 5 日 (月) 網走開発建設部 第 1 会議室	
委員	黒瀧 秀久 (東京農業大学学部長)、高橋 清 (北見工業大学教授)、 三上 修一 (北見工業大学教授)、渡邊 康玄 (北見工業大学教授) (五十音順)	
議事	<p>1. 平成 27 年上期総合評価落札方式 (工事・業務) の実施状況について</p> <p>2. 個別審査</p> <p>工事の審査について</p> <p>①網走港 物揚場 (-2.0m) 改良その他工事 (施工能力評価型 I 型)</p> <p>②網走川応急対策事業の内 鏡橋上流右岸特殊堤補修工事 (施工能力評価型 I 型)</p> <p>業務の審査について</p> <p>③北海道横断自動車道 北見市 端野周辺現況調査外一連業務 (標準プロポーザル)</p> <p>④北見地区 施設長寿命化計画策定等業務 (簡易公募型プロポーザル)</p>	
委員からの意見・質問、それに対する回答等		
意見・質問	説明・回答	
<p>1 平成 27 年上期総合評価落札方式 (工事・業務) の実施状況</p> <p>上期 (1～6 月) の業務発注で逆転率が低い要因は何が考えられるか。</p> <p>2 個別審査</p> <p>①網走港 物揚場 (-2.0m) 改良その他工事 (施工能力評価型 I 型)</p> <p>A 社と B 社はともに 3 項目評価となっているが、提案内容のレベルが違うように思われ、項目だけでなく、提案内容に重みを付けて評価した方がよいと思われる。</p> <p>②網走川応急対策事業の内 鏡橋上流右岸特殊堤補修工事 (施工能力評価型 I 型)</p> <p>「当該工事の留意事項」として河川利用者に対する配慮を求めているが、地域住民への夜間の振動騒音への配慮は、河川利用者への配慮としては解釈が広く感じられ、河川利用者の定義はもっと限定されると思われるため、もう少し河川利用者の定義を明らかにした方がよい。</p>	<p>上期 (1～6 月) の業務発注では、発注者支援業務の 1 社応札が相当数含まれ逆転率が落ちており、下期 (7～12 月) では前年と同様に上がると想定しています。傾向的には、2 社応札で逆転率が上がり、3 社応札ではさらに上昇し、3 社以上応札の業務では、50～60% の逆転率となっている。</p> <p>本審議対象工事は、施工能力評価型で、発注者が示す仕様に基づいて施工を行う能力を有しているかを技術者・企業の実績・成績等に加えて留意事項を求め、その書面で確認する工事であり、各社の提案内容に優劣を付けて評価していない。</p> <p>工事施工場所に河川管理用道路があり、遊歩道や散策路として、観光客や周辺の住民等が多く利用しているため、周辺住民も含めて評価している。しかし、御指摘の様に河川利用者の定義がややあいまいな部分があるため、今後、解りやすい公告に留意したい。</p>	

委員からの意見・質問、それに対する回答等	
意見・質問	説明・回答
<p>③北海道横断自動車道 北見市 端野周辺現況調査外一連業務 配置予定技術者の資格要件を技術士の建設部門などとしているが、環境関係の資格は必要なのか。</p> <p>特定されたB社と非特定となった会社の評価点合計で差が生じた主な要因は。</p> <p>④北見地区 施設長寿命化計画策定等業務 技術提案（実現性－説得力）で、特定されたA社と非特定となった会社の評価点で差が生じた要因は。</p>	<p>技術士の建設部門には、建設環境も含まれており、環境関係の資格でも要件を満たすこととしている。</p> <p>B社は、実施フローや工程計画の妥当性が高く、評価テーマに対する技術提案において着目点などが適切かつ論理的に整理されていたため高評価となり、非特定の社と差が生じた。</p> <p>A社は、施設長寿命化計画作成にあたって、他社に比べてコスト縮減や環境配慮や対策事業に着目した説得力がある提案があったため、差が生じた。</p>